



モッピーだよ

特定非営利活動法人
ふれ愛びっく大阪クラブ
責任者 竹中重夫
柏原市大正1丁目3番25号
<http://www.kawachi.zaq.ne.jp/fureai/>

連盟会長大いに語る！

大橋 こちらこそ、どうぞよろしくと言うより、お手柔らかにお願いします。(笑い)
まあ、抱負といわれましても、余り喋りすぎると、いろいろと回りにご迷惑をおかけしますので、ね。でも、組織強化はしていかなければと考えています。

出席者
全日本グランドソフトボール連盟会長
大橋 博
インタビューアー
(ふれ愛びっく大阪クラブ)
廣谷 美雪



廣谷 新年あけましておめでとうございます。
今日は、新しい年の始まりを迎え、大橋会長に大いにその抱負をお話いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

廣谷 現体制の中では、不都合な点を感じておられますか。

大橋 ハイ、私共全日本グランドソフトボール連盟も、設立から早や6年になります。私達は自分の手で、全日本グランドソフトボール選手権大会を開催したいという長年の夢をかなえるため、がむしゃらにここまでやってきたのですが、お蔭様で順調に歩み続け、全日本選手権大会も4回を数え、ルール改正も行い、これまで各ブロックで、少し解釈にバラツキのあったルールを統一することができました。

チーム・審判員など競技関係者を対象に、研修会を開催、回を追う毎に参加者も増え、グランドソフトボール公認審判員認定会も定期的で開催しており、私としてはまずまずと思っています。

只、役員の皆様方には、それにとまなう活動について、ほとんどが手弁当に近い状態でやっていただいております。時間的にも経済的にも申し訳なく思っています。

廣谷 私も、大会や視察などで時々一緒させていただきますが、役員の方々は本当に大変ですね。皆さん当然お仕事をお持ちなんですから。それに動き回るといことは、やはり、経費がかかることでしょうし。

次ページへ続く！

グラソフの達人



昭和37年2月24日
魚座 AB型
徳島県チーム 主将

チームに人ありい

「徳島県 林 政夫さん」

Q：グラソフとの出会いは、
徳島県立盲学校に入学して、初めてこの競技を知りました。僕は、中学で軟式野球をやっていたので、ルールの違いなど最初は戸惑いでしたが、やって見ると案外楽しくて現在に至っています。

Q：グラソフの魅力は、
やっぱり仲間でしょう。僕はスポーツ大好き人間ですが、特にチームプレーが大好きです。

Q：チームの強さの秘密は、
チームワークの良さ、それと投手藤本君の安定感だと思います。

Q：チームに足りないところは、
ズバリ・若さです。「若者よ来たれ!!」今、徳島県では、生徒の減少でチームがありません。他チームに若い人が参加していると羨ましい限りです。でも、このままジリ貧になるのは嫌なので、何とか現勢力を保てるように、個々に体力アップに努めています。山田監督には、100歳まで頑張ってくれるようお願いしています。

想像すると怖いような気がしますが……でも、山田監督なら「100歳まででエエンか」と云われそうですね。(笑)

Q：では、林さんのグラソフへの夢をお聞かせ下さい。
全国大会等に出場したとき、いつも思うのですが、大勢の人達が、僕らのために一生懸命会場づくりをしたり、審判をしたりと、ほんとに、ありがたいなあと思います。以前は、審判の判定にいろいろ不満もありましたが、最近ではそのようなことも無く試合に集中しています。その気持ちに答えるためにも、僕たちも益々頑張りたいと思っています。

Q：具体的に何か？
オールジャパンで選抜チームをつくり、紅白戦が出来ればと思います。ベテラン・中堅・若手と、それぞれの分野から選抜します。特に若手選手の選抜に関しては、盲学校へ呼びかけても良いのではと思います。ベテランが中心となつての技術指導のようなものも欲しいです。僕は、キャッチャーですから、常に人のバッティングを見ているのですが「もう少しここを変えると良くなるよ」とアドバイスしたくなる時があります。チームメイトは「相手が強くなるから、あまり教えるな」と云いますけどね。でも、個人の力量が上がると、ますますグラソフが面白くなるでしょう？僕は、チームプレーが大好きです。グラソフを、何時までも楽しみたいと思っています。

全国障害者大会3連覇の偉業を達成されました、徳島県チームの林主将にお話を伺いました。強豪チームに在りがちな声高なところは全然なく、とても、穏やかで、当方の質問にも誠実に答えて下さいました。

2004年1月25日 ふれ愛びっく大阪クラブ 大阪リバーサイドホテル
ルール研修会 / 新年懇親会 環状線桜ノ宮駅下車徒歩3分
2004年3月 審判実技研修会 大阪市立盲学校(大阪市東淀川区)
2004年4月4日 MIE パールカップ 三重県立障害者総合福祉センターグランド

編集後記 大橋会長の初夢をお聴きして、ふれ愛びっく大阪クラブは世界に羽ばたくグラソフ目指し、夢に近づく第一歩の2004年にしたいと考えます。皆様のご協力、宜しくお願い致します。

事例 - 3

Q：無死走者一・二塁、弱視打者が、一塁ゴロを打った、一塁手は打球を捕って一塁ベースを踏んだ後、停止圏内に入った遊撃手に送球し確捕されたので、審判員が「停止」の宣告をした。そのとき、一塁走者は二塁に達していたが、二塁走者は、まだ三塁に達していなかった。

A：一塁手が打者走者をアウトにした時点で、フォースの状態ではなくなっているので、前位の走者を基準にして走者をどのようにすれば良いかをジャッジする。ボールデッド(解説3)
この場合は、二塁走者がまだ三塁に達していないので、二塁に戻す。したがって、一死走者一・二塁で試合を再開する。
試合ではよく見られるプレイである。審判員は、走者の位置確認を的確にすること。

事例 - 4

Q：一死走者一塁、打球が停止圏内で投手に当たり、前に落ちたが、投手はすぐに確捕した。球審はタッチのコールの後、アウトの宣告をした。走者がタッチのコール後、二塁に向かったのを見て一塁審判員が「停止」の宣告をした。

A：「停止圏内」で打球を確捕しただけでは、「ボールデッド」にはならない。
審判員は「停止」を掛けてはいけない。(解説1)

「ボールデッド」にするには、打球を確捕した野手が一旦「停止圏」の外に出て、再び「停止圏内」に入るか、ボールを「停止圏外」に出し、他の野手はそのボールを持って「停止圏内」に入らなければならない。
この場合は、ミスジャッジであるから、一塁走者に二塁を与える。

事例 - 5

Q：二塁走者位置・三塁、全盲打者の二塁前への緩いゴロを捕ろうとして投手が、一・二塁を結ぶ走塁ライン付近まで走り、打球方向への向きを変えたところへ、一塁を回った打者走者と接触し、投手が倒れた。その間に三塁走者は本塁へ、一塁走者は三塁を回り本塁へ向かっていた。緩い打球であったので内野のフェア地域(一塁と二塁・投手の中間点で)ストップボールになりそうになったので、二塁手が打球を捕って停止圏内に入った。それを見た球審が「タイム」の宣告をした。
一塁を回った走者と三塁を回った走者の位置は各塁の中間くらいであったので走者を一・三塁に戻して試合を再開した。これで良いか？

A：走者が進塁中のインプレイの状態であるから「タイム」の宣告は間違いである。
この場合「タイム」を宣告したので、それぞれ1個の進塁を認めなければならない。したがって、走者二塁で試合を再開する。得点は、2点である。
「停止圏内」に入った時点で「停止」を宣告して試合を止め、走者を戻し、直ちに負傷者に対して適切な処置をするのが望ましい。

大橋 ええ、まったくそのとおりですね。グランドソフトボールが好きだからやっているのですが、今、全日本グランドソフトボール連盟の組織には、十数名の役員がいますが、皆それぞれよく活動してくれています。でも、それでも足りない部分があるんですよ。

廣谷 といいますと。

大橋 広報なんですよ。ふれ愛びっく大阪クラブさんでは、「モッピーだより」という素晴らしい広報紙を発刊されています。こういうのは、今全日本グランドソフトボール連盟の体制の中ではとても作ることができません。実は、この場で言うのもなんですが、この件に関して私どもとリンクしていただけるように、お願いしようと厚かましいことを考えています。あと、ホームページも、もっとリニューアルしたいのです。

廣谷 先程、役員は手弁当でというお話ですが、運営費についてはどうされているのですか。

大橋 全日本グランドソフトボール連盟の運営費は、日盲連加盟団体からの分担金で、大会の運営費は参加費と団体からの助成金と協賛金などです。ただ、これまで助成いただいていた医療財団からの助成金が今年度で打ち切られることが決定しております。従いまして、来年度からは、各チームには、個人選手の登録費という形で、ご協力をお願いしたいと考えております。

廣谷 これからは、選手個人に負担をとということですね。そうしますと、何か選手に還元するものが必要ではないでしょうか。

大橋 おっしゃるとおりです。具体的には、今、はっきりとお話しする訳にはいきませんが、ひとつは先程の広報紙です。個人から登録費をいただくのですから、やはり、個人にこちら側から情報を提供しなければならないと思っています。後、各チームの強化対策として、「チームスコアラー」の育成を図って生きたいと思えます。これについては、記録委員会に働いてもらわなくてはならないでしょうが。

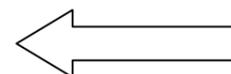
廣谷 チームの強化ということでしたら、私どもふれ愛びっく大阪クラブにも、「自チームの若手の育成を図りたい。技術向上のための研修と交流の場が欲しい」という声も聞こえておりますが。

大橋 ああそうですか。そういう声があるうちは、この競技はまだまだ発展する余地があるわけですね。私達もいっそう気を引き締めて、頑張らせていただきます。

廣谷 選手の個々のパワーを吸い上げていただいて、全日本グランドソフトボール連盟会長として、大いに頑張ってください。(笑い)

大橋 ハイ、わかりました。イヤコワイな!!ハッパをかけられていますよね。

廣谷 さて、もう一点お尋ねしたいのですが、全国障害者スポーツ大会については、どのようにお考えですか。今年の静岡わかふじ国体においても全日本グランドソフトボール連盟は、まったくカヤの外という感じでしたが、..



第4回全日本グランドソフトボール選手権大会

愛知県三年連続全国制覇!!



この大会をスムーズに行うため、全国各地から審判員・記録員(栃木県 10名、埼玉県 9名、群馬県 1名、愛知県 3名、京都府 2名、ふれ愛びっく大阪クラブ 12名の審判員 埼玉県 8名、愛知県 2名、広島県 1名の記録員)がボランティアで参加、大会運営に努めた。本当に遠いところご苦労様でした。これからもよろしくお祈りします。

順位

優勝 愛知県
 準優勝 京都府
 第3位 札幌MAX
 埼玉ナタフ
 第5位～8位
 三重県、パ-ライ東京
 熊本県、スルガジャガ-ズ
 第9位～12位
 愛媛県、島根県
 新潟県、仙台市

平成15年10月11日～13日、栃木県宇都宮市「柳田緑地ソフトボール場」において、全国各ブロック代表12チームが参加して、第4回全日本グランドソフトボール選手権大会大会が盛大に開催された。

11日、関東チサンホテル宇都宮において、審判会議・代表者会議・宇都宮市長・栃木県視覚障害者福祉協会会長等多数の来賓・競技役員・チーム選手・ボランティア等多くの方々にご参加頂き開会式・懇親会が開催され親睦を深めた。

12日は、4ブロック3チームでの予選リーグ戦12試合が行われた。第1試合は雨の中での試合開始となったが天候が回復、順調に試合が行われ、熱戦が展開された。11月に開催される「第3回全国障害者スポーツ大会」第1回戦で対戦する 京都府 対 三重県 は、1対1で緊迫した試合を展開したが、京都府が三重県を 5 対 1 で破り、幸先きよいスタートを切った。一方、打倒徳島県を目指す三重にとっては不安なスタートとなった。

13日、決勝トーナメント戦(順位決定戦)9試合が行われたが、決勝戦は、三連覇を狙う愛知県対第3回全国障害者スポーツ大会近畿地区予選会から勢いに乗っている京都府の対戦となり、京都府は1回表一死満塁と詰め寄るも愛知県小室投手の頑張りで得点なく、試合を優位に進めるも 3 回表集中豪雨に見舞われ、決勝戦はノーゲームとなったが、バッテリー・主将それぞれ3名によるジャンケンで愛知県が、見事大会三連覇を果たした。

予選リーグ戦 < 12日 >

A	札幌 MAX	3 対 2	愛媛県
	愛媛県	0 対 7	スルガジャガ-ズ
	スルガジャガ-ズ	4 対 6	札幌 MAX
B	パ-フライ(東京)	8 対 1	島根県
	島根県	0 対 8	愛知県
	愛知県	3 対 0	パ-フライ(東京)
C	京都府	7 対 0	仙台市
	仙台市	2 対 5	三重県
	三重県	1 対 5	京都府
D	埼玉ナタク	2 対 0	熊本県
	熊本県	3 対 0	新潟県
	新潟県	0 対 1	埼玉ナタク

決勝トーナメント戦 < 1～4位決定戦 13日 >

準決勝戦	札幌 MAX	3 対 6	愛知県
	京都府	4 対 0	埼玉ナタク
決勝戦	愛知県	0 対 0	京都府

(ジャンケンで愛知県優勝)

第3回全国障害者スポーツ大会

徳島県 三重県を破り大会3連覇!!



3連覇達成の徳島県チーム



徳島県林主将に優勝表彰状授与

平成15年11月8日～11日、静岡県掛川市小笠山総合運動公園(エコパ)で開催された「第3回全国障害者スポーツ大会」は、全国各地から8チームが参加、徳島県が実力を発揮し、三重県を破り念願の3連覇を果たした。

第1回戦は、仙台市に苦戦 0 対 0 で迎えた6回裏に2点を入れて勝利、準決勝戦は、埼玉県と熱戦を展開、両チーム投手戦で抑えた7回裏、徳島県は7番山田(監督)の中前安打、8番高橋のバンド、投手体内捕球を狙うもストップボールとなり、その間山田の好走塁で本塁を駆け抜け決勝点を挙げ、サヨナラ勝ちした。

決勝戦は、昨年高知県高知市で開催された第2回全国障害者スポーツ大会と同じ三重県との対戦となったが、徳島県の壁は厚く三重県を撃破、大会3連覇を達成した。全国各チームは「打倒徳島!!」を目標にします、4連覇目指して頑張ってください。

敗れた三重県は、第4回全日本グランドソフトボール選手権大会をはじめ、これまで片山投手の膝の故障などにより、練習試合などでもチームの勢いが無く大変心配されていたが、見事この大会に照準を合わせて調整、京都府を 7 対 0 で撃破、岡山県に苦戦したが、見事決勝進出を果たした。

この一年間、徳島県打倒を大きな目標として頑張ってきたが、全国制覇の壁は厚く徳島県にはじき返された。これからの更なる努力を期待する。頑張れ三重県!!

三重県マネージャ - 今村明希子さんからの投稿
 三重県チーム、徳島県になかなか勝てず です。今年監督が勢力さんから尾崎さんにかわり、新体制の三重にとっては全国第2位の結果は素晴らしいといえるかもしれません。(本音は金メダルが欲しかった!!)

私も来年、初心に戻って頑張っていきたいと思えます。まだまだグラソフは奥が深いので知らないことばかりですので、いろいろと教えてください。

11月8日	第1回戦	埼玉県 5 対 5 静岡県
		仙台市 0 対 2 徳島県
		京都府 0 対 7 三重県
11月9日	準決勝戦	長崎県 0 対 2 岡山県
		埼玉県 0 対 1 徳島県
		岡山県 3 対 6 三重県
11月10日	決勝戦	徳島県 4 対 1 三重県
	3位決定戦	岡山県 9 対 1 埼玉県
11月9日	交流試合	仙台市 2 対 3 静岡県
		長崎県 3 対 0 京都府

	1	2	3	4	5	6	7	計
徳島県	3	0	1	0	0	0	-	4
三重県	0	0	1	0	0	0	-	1

決勝戦(徳島県 対 三重県)
 徳島県、3連覇達成。徳島県は初回、大工の内野安打を足掛かりに、四球と2連続安打で3点を先制、さらに3回には、敵失の走者を大工の2塁打で2・3塁とした好機に永濱(全盲)の適時打で1点を追加し、試合を決めた。
 三重県は3回、二死後西脇の2塁打と2連続安打で1点を返すも力及ばず涙を呑んだ。

大橋 厳しいご指摘をいただきました。私共といたしましては、全国のグランドソフトボールチームを統括していると自負しております。今まで、全国各地で開催されたブロック大会については、大会審判は公認審判員で行うよう視覚障害者団体に強く指導し、公認審判員認定会・チーム研修会を開催して、協力をしてまいりました。

しかし、全国障害者スポーツ大会は、行政主体の大会であり、国から都道府県の障害者対策を主管する担当課に委託され、更にソフトボール団体が受諾し、大会が運営されております。各都道府県にある障害者団体が運営主体とならない現実があります。このため、グランドソフトボール競技関係者の意見がなかなか通らない状況になっています。

廣谷 それはグランドソフトボール競技を束ねる全日本グランドソフトボール連盟としては、立場がないですね。これからはどのような対応をされますか。

大橋 全日本グランドソフトボール連盟としては、日本盲人会連合・全国障害者スポーツ協議会等を通じまして、全国で開催されるグランドソフトボール競技については、全て全日本グランドソフトボール連盟が主管できるよう強く働きかけていくことを考えています。これを行うことにより、連盟が主管することで選手主体の大会が開催されると思います。もちろん審判員・記録員については、日ごろグランドソフトボール競技に係わっていただいている方々が競技役員として参加いただくこととなります。

廣谷 貴重なご意見をいただき心強く感じました。只、それを実行するためには、若い・新しい審判員の養成・魅力あるグランドソフトボール競技にすることが必要不可欠になりますね。その点もよろしく願います。

さて最後に、やはりこれは是非とも実現していただきたい。「世界へ翔ばたくグランドソフトボール」これは大橋会長の夢ですが、現在どのように進んでいるのでしょうか。

大橋 「全国大会を我々の手で」という夢は、大勢の皆さんのご協力のお陰で、達成することができました。本当に感謝しております。この次は、「夢のまた夢世界大会」です。まずアジア親睦大会を実現したいと思います。「日本盲人会連合」「全国障害者スポーツ協議会」「ライオンズクラブ」「YMCA」等、各分野の方を足がかりをお願いしているところであります。

只、先発隊とでも申しますが、先駆けて、デモンストレーションが必要かと思えます。そのためには、選抜チームを結成し、親善訪問のような形で、グランドソフトボール競技を紹介、興味を持っていただくために派遣団を送りたいなあと考えております。今少し時間をいただきます。

廣谷 とても楽しみですね。そのときは是非私もお供させてください。

大橋 そう言っていただければ嬉しいです。日ごろ何かとお世話になっておりますが、ふれ愛びっく大阪クラブさんにも、全面協力をお願いしなければなりませんよ。こちらこそよろしく願います。

廣谷 本日は、グランドソフトボール競技に対する熱い思いをお話いただき、ありがとうございました。これからもどうかよろしく願います。ふれ愛びっく大阪クラブも特定非営利活動法人として活動以来4年目を迎えます。設立趣旨のグランドソフトボール競技の普及・発展のため全力で取り組んでまいりたいと思っておりますので、ご指導・ご協力を改めてお願いし、本日の対談を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

ルールを学ぼう

暫く休んでおりましたルール解説を、装いも新たに再び始めることになりました。今回は、審判員を初め選手の方々にも参考になるような、内容になるようにして行きたいと考えておりますが、さて、どのようになりますかお楽しみに！

では、今回は、まず「試合停止圏」について、事例を挙げて進めて行きます。ルールでは、「試合停止圏」とは、投手板の前縁の中心から、半径1.5mの円をいう。試合停止圏は、走者の進塁を防ぐため、ボールを保持した野手が踏み込んだり、持ち込んだり、または圏内で送球を捕球して、プレイをボールデッドにする地域である。審判員はこの状況のとき「停止」を宣告する。

(解説1)

停止圏内で打球を、捕球(全盲野手の体内捕球も含む)をただけでは、ボールデッドとはならない。走者の進塁を防ぐためには捕球した野手が、一旦圏外に出て、再び圏内に入ったときにボールデッドが成立する。

(解説2)

野手が打球を処理し、走者(打者走者)を刺殺、封殺するための一連の連続動作として、圏内に入っても「試合停止球」とはならない。

(解説3)

解説2以外の送球時に、圏内に入れば「試合停止球」となる。

(解説4)

停止圏内に持ち込んだり、圏内で送球を捕球しても、進塁が成立する場合がある。

一塁に達していない打者走者

そのためにフォースの状態にある走者(タッチアップでは、いまだに塁に達していない前位の走者を基準とする)。とある。

事例 - 1

Q: 打球を処理した左遊撃手が一塁へ送球するとき、停止圏内に入ったので審判員が「停止」の宣告をした。

A: 打者走者をアウトにするための一連の連続動作であるから、審判員は「停止」を掛けてはならない。ミスジャッジであるから、このような場合は、打者走者に一塁を与える。(解説4) を適用

事例 - 2

Q: 二死走者二塁、左中間に安打が打たれ外野手からの返球を中継した左遊撃手が三塁を回った走者をアウトにしようとして本塁へ送球するとき停止圏に入った。

A: 走者をアウトにするための一連の連続動作であるから。審判員は「停止」をかけてはいけない。(解説2)

但し、左遊撃手が外野手からの返球を中継したときの足の位置に注意を払うこと「停止圏内」に入ったのち、本塁への送球を止めたときも同じである。試合慣れたレベルの高いチームの遊撃手は、「停止圏」の使い分けを巧妙にこなすので、審判員は、それを見分けて的確にジャッジすること。